



かいづか

貝塚は、なぜ「貝塚」とよばれているの



ごみとしてすてられた物の中で、内側の白い貝がらが、いちばん目立ったからだよ。

内側の白い貝がらが、いちばん目立った

日本の貝塚は、おもに縄文時代（弥生時代以後は数が少ない）の人々が、住まいの近くにつくったごみすて場です。貝塚をほると、貝がら、魚・鳥・けもの類の骨、骨や角でつくられた道具、こわれた土器など、いろいろな物が出てきます。それらの中でも、内側の白い貝がらが、いちばん目立ちます。「貝塚」と名づけられたのは、貝がらがいちばん目立ったからです。

縄文時代の人々の暮らしを教えてくれる博物館

貝塚から出てくる物を調べると、縄文時代の人々が、どんな物を食べていたか、どんな道具を使っていたかなどが、よくわかります。貝塚は、縄文時代の人々の暮らしを教えてくれる、博物館のようなところなのです。

海が近くまで来ていたことも、教えてくれる

海の近くに住んでいた人々にとって、貝は重要な食料でした。そのため、海の近くにある貝塚からは、たくさんの貝がらが出てきます。また、海から遠くはなれた場所でも、貝塚が見つかっています。そのような貝塚は、かつて、海がその場所の近くまで来ていたことを、教えてくれているのです。

人骨がたくさん出てきた
貝塚もあるんだよ。

